

おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 25 号 (12 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB の皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

サッカー部 今年度 松田杯受賞

12 月 20 日 (月) 山形東高校では終業式が執り行われ、それに先立って各種表彰が行われました。OB や教職員が多数参加する松田杯等審議委員会は 11 月 17 日 (水) に開催され、そこでサッカー部の松田杯受賞が決定していたのですが、20 日正式に松田杯を受賞し、合わせて賞状と副賞を頂戴しました。もちろん登壇したのは 3 年主将三澤孝祐。1、2 年生の県新人 2 位、選手権 3 位という成績も加味されておりますが、もっとも大きな受賞理由は、3 年生が中心となって獲得した県総体 2 位という成績。そしてその成績を獲得するにあたっての真摯な活動です。ここで松田杯について簡単に説明いたします。

松田杯 (昭和 27 年 12 月 14 日制定)

【内容】

故松田通世氏 (山中第 26 回大正 2 年卒、元東京同窓会会長) より、母校 (山形東高等学校) 在学生徒の体育向上と奨励のために寄贈されたもので賞状及び副賞が授与される。

【選考基準】

山形東高等学校生徒会に所属する体育競技関係の部のうち、全国大会並びにこれらにつらなる予選会及びこれらに準ずる協議会においてすぐれた成績を収め、かつ部の統制・規律が他の模範となるもの。

上記から分かりますように、運動部の中から選考されるのが松田杯です¹。「部の統制・規律が他の模範となる」という基準にかなっているか否かについては非常に心もとないのですが、今後の向上に期待して授与された、と前向きに受け止めたいものです (わかりましたか、1・2 年生部員諸君!!)。

サッカー部は一昨年度も松田杯を受賞しましたが、その際はテニス部とのダブル受賞でしたので、サッカー部単独での受賞は久しぶりです。もちろん今年、目標を達成できたわけではないので、満足の一年とはいえなかったものの、3 年生の真摯な活動が評価されたことに、素直に喜びが込み上げます。2 月 2 日 (毎年この月日に開催) には恒例の体育部 OB 会総会がございますが、サッカー部の OB の皆さまも鼻高々で参加できる

¹ ちなみに体育部の個人に授与されるのが鈴木杯 (受賞は陸上 400m 障害で全国 3 位になった千葉優人)、文化部に授与されるのが矢野杯、文化部個人には駒草杯 (旧千歳会文化賞) が授与されます。

ことでしょう。

納会 例年の通り 大盛況

12月20日(月)終業式後18:00より、なかじま商店にて、OB会主催の恒例の納会が開催されました。納会はかれこれ25年ほどこのなかじま商店にて続けて開催されており、OB会の方々が現役諸君にすき焼きをごちそうしながら、一年を振り返る会です²。山東からは選手マネージャー合わせて42名、顧問2名参加し、OB会からは5名参加して賑やかに一年を納めてまいりました。

まず清野OB会会長からお話があり、病気が発見され大手術を受けた一年であったが、現役諸君の活躍から元気をもらい回復したとのうれしいコメントを頂戴した後、恒例の5名の優秀選手の発表と表彰(具体的には下記)。そして奥山副会長の乾杯で会食スタート。生徒諸君はきれいに鍋を作るグループもあれば、花より団子とばかりに見た目度外視の鍋を作るグループもあり様々。納会に間に合わせるようにマネージャーが作成した「山東サッカー 平成22年の記録」³を見ながら、すき焼きを頬張り、四方山話に花を咲かせました。遠藤顧問からは、引退した3年生の成績の伸びが他の部と比べ著しく、3学年会でも驚きをもって迎えられている、といううれしい報告もありました。部活動を頑張れた生徒は勉強に切り替えたときに伸びる、という法則をサッカー部3年生がしっかりと表現してくれている姿にOBの方々の表情も緩みました。

OBの皆さま、ありがとうございました。3年生諸君、諸君も4月からはOBですからね!

訂正のお知らせ

- (1) 東北大会日程ですが、正式には2月4日(金)監督・主将会議、2月5日(土)一回戦で、5日(土)~7日(月)が正しい大会日程でした。例年と異なり、金曜日一回戦ではなかったので、間違っていました。訂正いたします。
- (2) 前々号(23号)の訂正があります。(注2に載っております)晃先生の恩師でもあり、今野の恩師でもある元サッカー部顧問鈴木正浩先生から連絡があり、23号に掲載されている事実誤りがあるので訂正しなさいとの「叱咤」を頂戴しました。まずインターハイに出場した3年生が「数名」選手権にも参加と記載されているが正確には「野口と渡辺の2名」である、「選手権で優秀選手に選ばれヨーロッパ

² 前顧問の渡辺晃先生が現役の時に、初めてなかじま商店にて納会が開催されたそうです。その後、3年ほど別会場にて行われたこともありましたが、それ以外はずっとこのお店にてすき焼きを食べてきたそうです。ちなみに私今野も、高校時代はすき焼きをごちそうになりました。

³ この記録は、マネージャーがスコアやシュート数などの数字を載せているばかりでなく、選評も書かれてあります。書いているのは当然・・・マネージャーです。山東サッカー部のマネージャーのレベルの高さがこの記録を読むとわかります。

に行った」とあるが、「武田修宏君たちとシンガポールへ派遣されたのは高校1年生の時。ボク[鈴木正浩先生]が山東に入る直前。佐藤敏彦監督のとき」だそうです。正浩先生、正しい山東サッカー部の歴史を教えてくださいありがとうございます。また間違いがありましたら、訂正よろしくお願いします。

平成 22 年優秀選手

<p>藤盛 滉也 3年</p>	<p>スピード感あるドリブル、軽快なフェイント、決定力の高いフィニッシュにて、相手チームに脅威を与えるFWであった。リズムが常人と異なり、ボールを奪いにくい間を持ったドリブルをする選手であった。また相手を背負った状況で後方からのボールをワンタッチにて振り向きざまに抜くプレーがすばらしく、このプレーでチャンスをいくら作り出したか知れない。入学当初はひ弱でスキルも未熟だったが、3年間で大きく成長を遂げた。顧問今野のこれまで携わった選手の中で、3年間でもっとも伸びた選手と断言できる。県総体東海戦でのヘディングシュートの凄まじさは、臉に焼き付いている。</p>
<p>大久保 升誉 3年</p>	<p>まず練習中、そして宴会時のムードメーカーとしての功績が大きい。苦しい練習にて人一倍声を出し、チームの雰囲気盛り上げた。昨年度優秀選手となった浜間康生の正統な後継者といえる。選手としても、最終的にはサイドバックに落ち着き、レギュラーとして勝利に貢献した。背は低いヘディングがめっぽう強く、足は遅いが相手ドリブルに対して体を入れてボールを奪う能力は非常に高く、驚きのある選手であった。今後は、生来の内弁慶を克服し、内輪受けだけでなく、さらに大きな輪にても盛り上げ役になれるよう頑張してほしい。</p>
<p>松永 拓 3年</p>	<p>1年生の11月にモンテユースから山東サッカー部に移籍し、他の選手に「出遅れた」が、3年次には6月で引退した他の選手を尻目に7月末まで現役を続け、人一倍高校サッカーを堪能した。ジュニアユース時代から名前の通った選手であったが決してスキルが高かったわけではなく、努力家タイプの選手であった。スペースを見つけて飛び出す能力、力強いドリブルに非凡なものがあつた。とりわけ、強い相手、重要な試合、上位大会になればなるほど力を発揮するタイプであり、彼のような選手を「本物」と呼ぶのであろう。あの甲高い声と裏返りは、当分忘れられそうにない。</p>

<p>松 本 和 真 3年</p>	<p>腰痛にて満足にプレーできない期間が長く、不本意な高校サッカー生活であったと思われる。選手としては、広いサイド(逆サイド)を意識できるなかなかいない選手の一人であり、一年次には地区トレセンに推薦されたこともある。その後の伸びが期待され、練習や練習試合でたびたび好プレーを見せたが、腰痛には勝てなかった。ただ、腰痛を押して練習に見学に来たり試合の応援に来たりして他の部員と苦楽を共にし、プレーヤーとして苦しんでいる他の選手の励みとなった功績は大きい。時折、チームへの改善点として述べられるコメントは冷静かつ鳥瞰的であり、年長者の趣があった。今後は志望実現のため、人一倍頑張ってもらいたい。</p>
<p>三 澤 孝 祐 3年</p>	<p>2年次からレギュラーのCDFとして活躍し、体を張った競り合い、読みの良い対応、高いヘディング、後方からのコーチング、的確な場面にてなされるオーバーラップにてチームに貢献した。特にスローインの飛距離に非凡なものがあり、Yリーグ 2009 山商戦、県新人羽黒戦など、決勝点に結びつけるロングスローパスをしたことは、記憶に深く残っている。主将として練習を計画的に指揮したことの功績も大きく、通常チームの力が低迷・停滞する冬場に着実にチーム力を上げることができたのは、彼のリーダーシップに拠るところが大きい。今後は、これまでのリーダーとしての経験を生かして、さらに大きな舞台で人々の先頭に立ってほしい。</p>